

1. 本園の教育及び保育の目標

- 子ども一人一人を大切にし、心を育てる
- 保護者一人一人を大切にし、心に寄り添う
- 保育者一人一人を大切にし、同僚性を育てる

2. 本園の教育保育方針

- ・0.1.2歳児はアタッチメントを大切に、安心感の中で、一人一人に寄り添い、受け止められることで、自分は愛されているという感覚を育て、自尊心、自己肯定感の根っこを育てる。
- ・3.4.5歳児は主体的に遊びから学べる環境を保障し、様々な体験を通して生きる力の根っこを育てる。

3. 本年度、重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 教育・保育の全体的計画、指導...個人の発達や家庭での現状に応じた教育保育を行う。チーム保育による保育教諭の連携。異年齢保育の取り組み。
- 保健管理...園児の健康診断の実施（年2回）、日々の健康観察。
- 資質向上の取組...園内外での研修。共通認識。職員間の保育についてのグループワーク。園内での公開保育。
- 子育て支援...地域の子育て支援“ひだまりキッズランド”の実施（うららの森にて）在園児の保護者支援（園の様子配信）
- 幼保小連携...園児と児童の交流／円滑な連携・接続
- 教育環境...施設設備・遊具や教具の安全点検・環境整備
- 食育の推進...食を営む力を育てる

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	取り組み状況
教育・保育の全体的計画、指導	A	自然の中で、子ども達の興味関心のある環境を準備し、それぞれの発達段階に合わせて援助配慮を行っている。
保健管理	A	学校環境衛生基準定期検査の実施。園医検診、歯科検診、尿検査を年2回実施。
資質向上の取組	B	園内での公開保育を行う中で、他クラスの子どもの育ちを共有し、保育者のかかわり方を学びあう機会となる。
子育て支援	A	未就園児対象の保護者が集うひだまりキッズや発達の悩みを持つ保護者が集うドレミ会、子育ての悩みや不安などを共有できる憩いの場となっている。また、園での様子をICTを活用し、見える化することで保護者の子ども理解にもつながっている。

幼保小連携	B	進学する小学校の教諭に園での子どもの姿を見てもらい、どのような育ちをしているか、保育教諭のかかわり方などをみてもらう機会をもつ。また、近隣の小学校へ見学へ行き、小学校生活へ安心感や期待感をもてるようにする。
教育環境	A	施設設備・遊具点検を月に1回、異なる職員が点検にあたり、安全に遊べる環境づくりを行っている。
食育の推進	A	子ども達の体験から食につながるようにクッキングなどを計画し、食べたいものや好きなものが増えるように、また、食事を楽しむことが出来るようにしている。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	“遊びに学ぶ”の理念のもと、自然の環境の中で様々な体験活動を通して、大きさ、美しさ、不思議さなどに気づき、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味・関心を持ち、取り入れたり、試してみたりして遊びこむ姿があった。また、保育教諭が一人一人に寄り添い、受け止めることで安心して、自分を発揮でき、成長につながっていると感じる。

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
資質向上の取り組み	保育教諭の現在抱えている課題を話し合える関係をつくり、対話を通して解決に向かっていきたい。引き続き、園内外での研修を通して学びを深めていく。
幼保小連携	小学校教育との円滑な接続をするために、小学校教諭と意見交換をしたり、園児と児童が交流の機会をもてるようにして、小学校との連携をさらに深めていきたい。

◎ 「4, 5」の評価結果の表示方法

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	とりくまれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である